

市民ワークショップでのご意見

1. 四万十じまん！

四万十の自然
・ 四万十川、沈下橋
・ 佐田の沈下橋、四万十川に掛かる橋で最長の長さを持つ
・ 流れが変化に富んでいる、せせらぎ、瀬、淵など
・ 歩きながら川と見たとき、曾爾山を見て素晴らしい
・ 四万十川 日本一の清流復活を、魚や海苔、その他の育成
・ 四万十の海 魚を育てる海藻を海岸に、海を育てる山づくり
・ 青く澄んだ空、星をたくさん見ることができる夜空
・ 菜の花や桜並木、開花が早い（春を早く感じられる）
・ 若葉や透き通った川の流れ（四万十川）など
・ 下田やふたみなどの港や海的美しさ
・ 紅葉の景色、黒尊渓谷、唯一の紅葉の場所、清流と紅葉
・ つるの里、森沢平野・江ノ村平野（つるの飛来）
・ 自然：四万十川、赤鉄橋から見える四万十川、小さい時よく赤鉄橋の下で泳いだり魚を取っていた思い出があり、夏は多くの人に来ていたね
・ 四万十川沿いの夜の堤防、星空がきれいな空気感がステキで静か、飛行機が多くたくさん見えるのが好き、施設に生かせるかどうかは分からないです
・ 四万十大橋：汽水域に掛かる大きな橋、徒歩で渡ると風を感じることができます。展望スポットから下流を望むと、鳥になった気分が味わえます
・ 水公園（親下町の裏、ロイヤルホテルの近く）：私はあまり評価していなかったのですが、県外の親戚が「さすが四万十川のある四万十市、街の中に水が流れている…」と感激していたので
・ 四万十川の河原の菜の花畑から見る赤鉄橋：ゆったりとした時間を感じられるから
・ 四万十川のカヌー（川下り）、為松公園の桜、藤、安並の水車とアジサイ、四万十川の菜の花、季節折々の花、とんぼ公園の蓮の花、トンボもたくさん種類があります
・ 沈下橋、高瀬、佐田の沈下橋近辺の風景
・ 四万十川、入田の菜の花、下田の展望台から見える海、安並の水車、など自然がたくさんある
・ 心がスーっとする、時間を忘れることができる
・ 四万十川
・ 海：入野（浮鞭）、双海、平野の景色、下田の上の展望台から見た太平洋の地平線
・ 川：沈下橋、清流、川遊び
・ 赤鉄橋（菜の花のシーズンが特に好き！）、沈下橋、藤、とんぼ（とんぼ公園）、あやめ、アユ、屋形船、蜆
・ 西土佐方面へ向かう途中の川沿いを通る場所、川が大きく蛇行しているところ。四万十川の見どころであり、自慢の場所と個人的には思っている
・ 為松公園：みんなが子供のころから遠足やお花見に訪れる場所です。山の上から街の景色を見下ろすことができ、とても気持ち良いです。小さな遊具もあって、子供たちを遊ばせたりできる。やっぱり春のお花見のころは1回は為松公園に行かない！と思う。小学校、中学校、高校それぞれのシーンで友達と訪れた場所、やっぱり思い出があるからかな？好きな場所です。自慢できる場所とかどうかは分かりませんが…
・ 為松公園：春になり、桜が咲いたときに毎年車で行きます
・ 香山寺：5月になるとサツキ、藤がきれいで、色々な種類の藤が咲きます
・ 四万十市下田：大規模公園の高所から見た180度に近い太平洋の大パノラマ、とりわけ海が無い県や地域、瀬戸内海や日本海地域の人たちは不意に偶然案内してあげたら大変感動していただけます

四万十川をはじめとする豊かな自然が自慢！というご意見が多く挙がりました。その他、一條神社などの歴史や、四万十の街並みやお祭り、そこで暮らす人々の様子こそが自慢、というご意見も！

- ・ 雨でも台風でも晴れでも41℃でも寒くても、自然そのもの大気もたらすものと、四万十の草、木、海、山、雲、川が織りなす、作り出す光景
- ・ 西土佐の黒尊：川の水、木々がめちやくちゃきれい、川が原生林が生きている（生命が[生き物がいて]動いている）ので、都会の方に自慢できる場所です
- ・ 黒尊川：水が澄み渡っていてとてもきれいで、見ているだけで体がすっきりする
- ・ 四万十川：雄大な流れで澄み渡る
- ・ 神殿橋：黒尊川の上流にある紅葉のきれいな場所
- ・ はじめて屋形船に乗った時とても感動しました、その後たくさんの音楽家を案内しました。皆さんの感動は私以上でした。地元で暮らす人はそれ程でもなく少し不思議でした。川船でゆっくり過ごす時間は中村らしいです
- ・ 439号線、大用の少し手前のカーブ、視界が広がる場所があり、雄大な川の流れと山の景色、山に帰ってきたと感じる。雄大な自然、なつかしさ、広々とした景色、季節の移り変わりを感じられる、視界が抜ける場所がたくさんある

- 四万十の歴史**
- ・ 幸徳秋水の墓 全国に誇る一番は秋水、全国に売り出し記念館を
 - ・ 一條神社、街並みは土佐の小京都
 - ・ 一條神社：幡多・中村に文化をもたらし、武力を使わずに平和的に統治した人を祭る神社。一條氏が来なければ今の中村はない、重要な家なので。五百年続く歴史・和・小京都らしい雰囲気の良い建物
 - ・ 薫的山：お正月の初詣に行きます！入学のお願いが叶ったら、だるまを置いて帰ります！素朴なお宮です

- 四万十の街並み・暮らし・人びと**
- ・ 中心市街地：昼間はさびしい街が、夕方一斉に灯りがともり、急に元気になる！千と千尋の神隠しを彷彿とさせる街です
 - ・ 土佐中村駅の待合室：おしゃれな空間だと思います（木とかあってシンプルで…）
 - ・ 四万十川の堤防：ランニングやウォーキングを気軽に楽しめる、自然の中を過ごすという非日常的な感じと、車の交通が無いところが、同じことを楽しんでいる一体感がある
 - ・ 建物は特に思い当たらないが、一条通りや東下町通りの道の雰囲気も素敵
 - ・ 神社の風景とか好き、日曜市の風景とか好きだった
 - ・ 一條神社：藤祭り、公家行列、毎年5月の連休にあります！
 - ・ 西土佐も含めて、四万十市の街並みの多くの場所、そしてその各々の地域に根付いて、あるいは移住者として生活している人、一人ひとりが作り出す景色そのもの
 - ・ 一條公家行列に代表される、装束、烏帽子を着用し、その時代にタイムスリップできる行事。こうした儀礼、儀式、公家や武家・武士の文化は極めて日本らしさを感じるものであり、外国人には魅力的な対象に違いない
 - ・ 子育て広場「とことこ」（アピオさつきの中の子供用スペース）。四万十市の地域の皆さんが「子どもたちのために」寄付をし、おさがりおもちゃを持ち寄り力を貸してくれている場所です。私は東京から嫁いできて、今子育てをしていますが、四万十の良いところは絶対に「人」！！人の温かさ、人のつながり、この地域では東京で感じてこなかった温かさを毎日感じられます。子育て中の母親たちが必要と感じて半年足らずで実現できた…これは間違いなく四万十の人のつながり、温かさがあってこそ成りえたものと思います。そのため、すごく自慢したいです

2. 四万十らしい建築空間とは？

バリアフリーを重視した空間
・ 社中展等で展示スペースを利用している。使いやすさ、力仕事が少ないでも無いように（高齢化が進んでいる）、パネル運びなど（軽）、収納スペースを近くにしてほしい（脚立・額等の箱をしまう所）
・ 階段に手すりを作ってほしい、滑り止めを作ってほしい（杖歩行安全のため）
・ エレベーターの収容人数をできるだけ多くしてもらいたい、できれば1機より2機
・ 備品の移動のしやすさも大事です、備品は使う場所に近いところへ収納してほしい
・ 高齢者が多い、座って話ができるベンチなどを邪魔にならないように設置する。そこは日光が当たり暖かい
・ ホール内階段よりスロープの方が良いな、車椅子でもいけそう（脚が悪い人はどちらがましなんだろ）
・ 色々な年齢の方がゆったりと過ごせる場
・ 外構：角がなく丸みを帯びたデザイン
・ 高齢者に優しい空間、ゆったりすわってくつろげる場
・ 四万十はお年寄りが多い、使いやすさ、こどももやってみることができる！

四万十の自然や歴史を感じられる空間とするほか、バリアフリーの重視や、地域の人が気軽に訪れることができ、ゆったりとした時間を過ごせるような空間が四万十らしいという意見が挙がりました。

- 観光・歴史に着想した空間**
- ・ グローバル化している現在、和室では、海外からの来訪者におもてなしの茶道・華道・書道などの出来る空間、着物に合う空間も大切なのは…と思う
 - ・ 各部屋には史跡や著名人の名前をつけ、その部屋の中の一部のデザインに名前を使った物、人の特徴を出す
 - ・ 土佐っくいで四万十モチーフの絵がある壁があると絵的に美しい
 - ・ 内外装に檜と土佐漆喰を使い、伝統的木組の技術が見える建て方で。一條家の歴史を感じられるように
 - ・ 和室：壁を漆喰で
 - ・ 創作室・展示室：壁には檜を貼ってクロス張りではなく伝統素材を使ってほしい
 - ・ 京都らしい町並み

四万十市文化複合施設基本設計 市民ワークショップかわら版

Shimanto Tsukuru Tsuzuru vol.3



第3回ワークショップ「創る」

令和元年11月21日に、四万十市文化複合施設第3回基本設計ワークショップを開催しました。最終回となる今回は、31名の方にご参加いただき、活発なご意見をいただきました！

今回のテーマは、『四万十オリジナルを「創る」』。四万十らしさとは何かを考え、四万十らしい施設を創りだそう。四万十市に合った施設ってどんなもの？四万十らしさってどんな場所？四万十らしさってどんな色々々な側面から考えていただきました。

まずは四万十じまん！四万十市の中で、思わず誰かに自慢しなくなってしまうような魅力的な場所を教えてくださいました。四万十川や為末公園などの自然、一條神社などの歴史、四万十の街並みや暮らしなど、たくさん



次は、「四万十らしい建築空間」について考えていただきました。「四万十じまん！」で挙げられた自然や歴史などの要素を感じられる空間という意見が多く挙げられました。その他にも、四万十で暮らす人々のおおらかさや温かさが感じられるよう、気軽に訪れられるスペースがあると良いという意見や、施設利用者の高齢化が進んでいる状況をふまえて、準備や片付けが楽にできるようなバリアフリーな空間であることも、「四万十らしさ」につながるというご意見をいただきました。最後は「四万十らしい施設空間の使い方」を考えていただきました。限られた部屋を有効に使う工夫として、例えば調理室は2室に仕切って使えるようにし、別のグループが同時に利用できるようにしたらどうかというアイデアをいただきました。その他にも200を超える意見が挙がっています！一つひとつを大切な意見として受け止め、設計に活かせるよう、今後検討を進めていきます。

基本設計ワークショップは今回が最終回ですが、これからも皆さんの声を直接お聞きできる機会を設けたいと考えています。四万十らしい文化複合施設を目指して、まだまだ設計は始まったばかり！これからも一緒に文化複合施設を創りあげていきましょう！

なんでもアンケートでのご意見(一部抜粋)

- 「四万十市らしい」大事ななあと思いました。四万十市に住んでると気づかない、わからないあたり前のことが自慢になるんだなあと思いました。
- 皆様の思いが通じて素晴らしいホールになる事を希望します。
- 大きな視点と細かな視点幡多地域の中心となる文化施設です。
- 色々な意見が聞けておもしろい。
- 新しい使い方の方向に進めようとしているけど、本当にみんなが安心して使えるような施設を作ってほしい。
- 発表者の意見を聞いて、なるほど！と思うことがあり、四万十のいい所の再発見になりました。客席・舞台の案が素敵でした。
- 明るい雰囲気、初めて出席したのに言いたいことを言わせていただきました。
- 様々意見が出て、最後だけ一番良かったです。

空間を使いたおすための工夫	様々な世代が集まる、様々な世代が使いやすい
<ul style="list-style-type: none"> （囲碁同好会は）50名程度が参加する会で、今までは和室でしたがこれからは机・椅子を利用して会議室で活動したい 卓球室を確保してほしい、もちろん他の用途で共用も可能ですが、空間は安全のため一応閉鎖できることが必要です。 娯楽コーナーを杉の衝立で仕切る（やなせ杉を使用）、広い空間をその時々細かに分け、有効的に使用する 新しい使い方？今まで使っていた者は締め出しのよう。多目的に使える空間というのは反対に言えば卓球等を楽しんでいた人達は今までのようなかたちでの使い方はできないということ 調理実習室ももっと大きくして、アコーディオンカーテン等で仕切りして、2団体が使えるような工夫してほしい！ 調理室の施設が1つと聞いたので、他の団体と被ってしまったも間仕切りがあれば2つの団体が調理室を使えます 色々な使い方を出来るのは良いと思うが、色々な団体・サークルが利用するとき、間仕切りだけでは音の問題が起きるのはないかと心配。同じ時間帯で使いたい部屋が重なったときはどうする？思いやりだけでは済まされないこともあると思います 使いまわしの出来る部屋、安全で清潔に使える部屋、もちろん使った人が大切に使うことは当たり前ですが、部屋の近くちよっと掃除ができるものなどを置いておくが、受付で貸し出せるが良いですね。備品に不具合があったときは（クレームではなく）すぐに知らせるとか、気が付いたことはすぐ目安箱などを設置して、広く意見を集めるようにするなど 交流ロビーを生生涯学習活動の場とし、曜日によって囲碁や舞踊などの練習に使う 多目的室：照明を調整できる 共用スペース：発表できるように、音響や照明にもこだわってもらいたい、色々な可能性が生まれるように ロビーでコンサートができる空間ではなく、小ホールを造るのであればしっかりした小劇場があった方が良いでしょう。ただ2つもホールを造ることによって、運営費は増える、そして稼働率があるのかが心配です 調理室はしきりで中2つにできるようにした方が良い(大1つより中2つの方が使うと思う) 野外の踊り場に音響設備いいな！野外コンサート、ライブ、野外映画とできるかもしれない スパイラルホール、車椅子の通れるスロープとして2階まで作ればロビーコンサートの客席替わりと、非常時に車椅子の人も逃げやすい道ができていいな！大階段とロビーでロビーコンサートもいいな！ 外の屋根の下でお茶席イベントとかできて面白そう！ 朝市とかマルシェとか、ホールを含めてやってもいいかも タイムシェアリングのイベント時のテント、通常は椅子やテーブルもいいね！ イベント時の休憩スペースでもいい！ぼんぼりつけて出店置いて、とかでも良いけれど ホールでプラネタリウムができたら楽しいが、その場合天井に工夫いるかな？ 楽屋：会議室利用 和室：畳を外すと洋室に 中会議室：畳敷きで座って会議できれば、他和室と同様にも使えるので良いと思う ホールの中では飲食できませんが、外や中の空間のどこかで飲食可能 とても新しい考え方で、なるべく費用のかからない空調を考えてほしい、そうすれば各部屋の色々な使い方が出来そう 小ホール：平土間なので、ワークショップ、小さい講演会、劇を見る空間 リハーサル室：防音なので、大騒ぎするワークショップ 中村子ども劇場では、毎年何回か100〜200人程度の集客で生の舞台を見ています。スタジオやリハーサル室も使えるのかな 小さい舞台のある部屋：ダンスを30〜50人で観られる場所、小さいステージがある部屋、高校生の漫才のコンドもいるので、お笑いステージが出来る（30〜70人）、マニアックな映画を観られる空間（30〜70人）、何かの発表など 	<ul style="list-style-type: none"> 多くの方が今から利用する施設なので、生の舞台公演や芸術作品に触れられる、子供からお年寄りまで気軽にに行ける施設 お年寄りにやさしい、できるだけ段差が無いホール 車椅子の方や小さな子供も使える低めの設備もほしい、必要な時だけ取り出せる可動テーブルでも対応できそう。今はテーブルを持ち込んだり窓際の台を片付けて代用していますが、色々な人への配慮がある施設であってほしいと思います 四十十らしい！はガヤガヤワイワイとのんびりゆったりが融合しているものな気がする、静かにしなといけいな場所時間と、高校生や学生が集まっても良い場所、PTAのママさんたちが打合せできる場所（廊下でもOK）が施設内に分かれてあれば、いつも行く場所になれば四十十らしくなっていくさそう！ キッズコーナーはきちんとした空間（仕切られた空間）であつたらいい（お母さんたちが子供をその空間においてゆっくりできる）、開放することもから目が離せられない、そこでこどものワークショップやお母さんのワークショップをする 現在の公民館、婦人の家、文化ホールを使っている方は、もちろん新しい施設に興味を持ち、足を運ぶことと思います。それらの方々は「今の」施設を賑わせ盛り上げるのにとっても大切な人々と思います。今使っている方々を大切にしながら、「未来」のこを見据える使い方が四十十にとって新しい使い方と考えます 四十十市は殿様商売の気質(来てくれる人が来るまで待つ、自分からアプローチしない)が根強いのかなと思っているので、今のままの使い方だと、現在の3施設を使っている方々は使うが、世代が移ったときどうなるのか？と感じています(今回の複合施設に関わらずですが) どれだけ幼少期から施設を擦り込めるか？幼い頃から行き慣れた場所なら、その人の人生を通して足を運びたい場所になると思います。子どもを連れて行った楽しい記憶があれば、20代・30代にも擦り込めるはず！ 現在利用している方（来てくれる人）だけでなく、もっと低い年齢（子供・10代・20代・30代[見落とされがち]）への擦り込み（自分からのアプローチ）をし、「未来」のこを見据える使い方が出来るといいなと思います 今ある公民館、婦人の家、ホールにはキッズスペースがないので、参考までに「とことこ」では、おもちゃがあるので片付けたりおもちゃを持ち込む必要なし、託児スペースとしても使えます（お母さんたちが自主的にやりたいイベント、勉強会などをする際の…） 新施設には調理室があるので、今までやりかたった料理教室(託児つき)ができそうで嬉しい（「とことこ」では）施設全体を使ってお祭りを企画しました。ホールや小部屋など使えるところを使って、大規模な子どもまつりとかやってみたい！色々な夢が膨らみます♡色々な部屋があるので、冒険イベントや宝探しイベントがやってみたい！
	イベントや市内施設と連携した使い方
	<ul style="list-style-type: none"> 四季のイベントやお祭りがたくさんある、その時に写真を撮っている人がいるのでその展示をする。黒潮町はTシャツアート展にインスタグラムにて黒潮町の良いところを募集している。良いか悪いかみんな知り合いのため、知っている人の写真や作品の展示があればみんな見にくる 街の掲示板として、サークルやイベントなど、色々な情報、募集を掲示する 施設の完成日を記念日としてイベントやってほしい！ 市内のイベントと連携した使い方ができると良い（使われないと新規取り込みにくいし） 可能ならオリジナルグッズ売ったり、スタンプ作るう！（施設と協力してスタンプラリー設置とか記念スタンプとか） 文化センター、公民館、婦人の家、3つを1つに統合する、一か所に詰め込まなければならぬという発想を止めた方が良いでしょう！四十十市の街の中にある市役所、社会福祉センター、商工会議所、各学校（小学校〜高校）、会社、事業所、四十十市の街全体が一致団結・協力して、新複合施設の自然なパートナー、補完関係になっていけることが、この四十十市のより良い未来を考えることに繋がると思います 駐車場（表）で一條大祭、市民祭のイベントもできますね イベントとして四十十よさこの演舞場として利用

気軽に訪れられる、日常的に使う
<ul style="list-style-type: none"> 展示作品もぶらりと見ていただけたらありがたく、うれしい 展示室と小ホールを連携して使用できたら便利だと思う。透明な仕切りであれば、中で何をやっているかがすぐにわかって興味を持った人がのぞけるし、観てもらえて良いと思う 日ごろ、身近に使えるものとなっていない、全く3施設の複合施設、それぞれの施設の利点を新しい施設でも生かすという立場にたっていない、特に働く婦人の家の役割を考えていない 近くに公園もありますので、外では夏のお盆のころや四十十市間崎地区の大文字焼きの日に合わせてキャンドルイベントや、冬にイルミネーションでにぎやかに飾ると、ホールに用事のない人も立ち止まれるのでは？ 市民がぶらりと立ち寄れて、時間を有効に使えるスペースはとても大切だと思う 喫茶コーナーを設置してほしい（自分で持ち込みできるよう）、テーブルも移動式で脚はキャスターを取り付けする（引き出したり格納したりするよう） 自由な場所ってなかなかない。行きにくい場所、暗い場所じゃダメ。いつも行っていいよ〜のウエルカムの雰囲気にするには？そこが難しそうだなあ…その雰囲気を作るには？敷居を低く、お金のかからない場所？ 融通が利く、おおろかにどんな活動も許してくれる アスレチック的な場所があると面白いかも ロビーに座れる場所、人を待てる場所。椅子、座り込む、立って、鞆をカウンターに置くなど 外国や県外の人から自転車で観光している姿をよく見る。そんな人たちが必ず立ち寄るような観光スポットのひとつになるといいな

自然が感じられる空間（②に近いご意見）
<ul style="list-style-type: none"> 四十十川の流れ、水の音、光 四十十ウルトラマラソンを走ってみると、四十十川の雄大さが身近に感じられます。しかし、大雨が降り増水すると脅威になります。四十十川はいろいろな姿に形を変える、人間の人生そのままとも思えます 暗くなった時に、四十十の夜空の中に四十十川が流れているような天井、ブラックライトで光るようにするなど、ステージに邪魔にならないように工夫できないでしょうか 中庭に緑の部分の設け、木製のテーブル・椅子をいくつか置くのもよい 四十十川は、喜怒哀楽、喜びも怒りも哀しみも楽しみも全ての感情を飲み込み癒す大河。今も昔も中村、西土佐の人たちの生活を見守ってきた川。とするならば、四十十はスポーツのように柔軟に吸収できる生命体に例えられる 時計でなく時間が分かる場所、日時計のような、光や影の位置で

その他
<ul style="list-style-type: none"> 遠くから見てもわかるような屋根 天井は必要以上に高くなくて良い、こじんまり、そして束ねて… これから災害が多くなり、避難場所としてもすぐ利用ができるのではないのでしょうか

1つの空間をいろいろな用途に使うことに加えて、今おこなっている文化活動が新施設でも行えることも重視してほしいという意見も挙がりました。

四十十の自然を取り入れる、自然をモチーフにした空間
<ul style="list-style-type: none"> 大自然（大河四十十川）の中で人工的な沈下橋、この橋には歴史がある その近くに住む方、遠方から来られた方、大きな四十十川の流れを見ていると様々な方の思いも流れているように感じます 四十十川の清流で泳ぐあゆを会場に何等かの形で表し、会場に入ったとき四十十市にふさわしく感じられるようにする 照明が外光から取れば面白いかな？環境にやさしい施設を 四十十の木（杉、檜）を使つたらいいと思う おおらかな“流れ”をイメージしたレイアウトも素敵、曲線を取り入れたデザインとか、やわらかな光を感じる色合いの照明も良い ロビーに緑（植物、木）をたくさん取り入れる、鉢植えとか…（世話する人が大変かな？ボランティアの人に頼む？） 水の流れを連想する流線を多く使ったデザイン 建物の中に水を流すことは難しいので、LEDやプロジェクションマッピング等で表現できれば面白い、時間によって見える内容が違くと、何度も見に来る人がいるかもしれない 沈下橋の意匠を、建物のエントランス・雨避け、ベンチの形などに応用できると笑えるかも、あちこちに応用できそう 四十十市といえば、豊かな自然、食べ物おいしいイメージがありますが、それを空間で表現すると言われると思いたらない 木を使った造り、季節の花などを飾る 四十十川、山の稜線が素晴らしい。西土佐から下流へと流れる大きな蛇行の美しさ 栲原みたい木材感あふれる内部空間は憧れる 夏に風が通り抜けるホール、可能な数敷地内に小さな川があって水車があると良い 川イメージはいいなと思うが、青の座席？（しかし川と海があるので川を2階、海を1階にしては？と話を聞いて思ってしまった） 入口から舞台までのルートを川イメージにしたら面白いかも 石と木をうまく使うといいなあ 曲線を使って川イメージ、赤鉄橋モチーフのものが欲しい（例えば半円形の窓のひとつが赤枠とか）モチーフを粉れ込ませて探してね♡というふうにしてもかわいい ベンチなど沈下橋イメージのものとかあってもよい、複数あるなら四十十市内の沈下橋をモチーフに、一つひとつに差があると良い 施設のマークに藤を入れてもらいたい 自然豊かな四十十市の景色が眺められれば良いのかな？ 為松公園から街を見下ろせたように、展望台のような？そんなに高台ではないから無理かなあ… どこかの土間が庭かに四十十川の砂利を使う 初夏に藤の花が咲き、秋に紅葉する木々のある庭（黒尊川の紅葉） 四十十川の沈下橋 抽象的ですが、川の流れを感じる、木が揺れて風が通っているような空間、でも木があったかいい色で温かみのある、居心地のよくてずっと座っていたくなるような場所 四十十の木材を使用する、自然を感じられるようにほっとできる椅子がある ホールの中が明るい、光が入りやすい 外装：山や海、川を見たときイメージが湧く感じ、入りやすい どこにいても山が見える、空が広い、室内でも外を感じられる ゆるやかな曲線、やわらかく包み込む感じ 視界が抜ける、行き止まりのない回遊性 水の冷たさ、岩のごつごつした感じ、草のちくちくゴワゴワ、ふかふかの土、様々な手触りの感覚がある 中間期は自然換気で気持ちよく 環境：山、海、川が一度に楽しめる、空が広い（解放感）

3. 四十十らしい施設・空間の使い方とは？

設備や設えへのこだわり、アイデア
<ul style="list-style-type: none"> 囲碁用具を置く場所は是非お願いします。容積は1mくらいです。会議室の隣にお願いします 机が20個並べられて、1個当たり4人が囲めるスペース、広さとしては45-70m程度で、土足可のフロアが欲しい 別途物置が2㎡（用具置き場として） 机の高さはA4の縦方向2枚分が理想です 器具はすぐ近くに置けるようにしてください 荷物を置けるスペース 調理実習室：作るためだけでなく、試食の際は心地よく食べたい。調理台の高さに合わせたスツール選びも小さなひと工夫 和室：ヨガなど癒しのレッスンの際、ひょうたんランプなど四十十で作られている照明を使用 昼と夜とで雰囲気が変わる、室内・屋外の照明が変わるなど 和室：襖や障子廊下があることでつるげるスペースになる、一室は落ち着いた和の空間にしていだきたい、和室に炉 停めやすい屋根付き駐車場 施設用に売店ほしい ハンドメイド教室などに利用できるとかあると良い（分かりやすく広い）

四十十の人々、暮らしに合った空間
<ul style="list-style-type: none"> 地元のおいしい食材（持ち込みでも）を食べることのできるスペース（屋外でも良いので） 広々とした感じ よく言えばゆつたり、悪く言えばよつとルーズな市民性が特徴（少々かまろうろ…とか、まあまあいい[良い]とか） 酒宴で参集した人から飲み食い始める“四十十方式”も独特 自由に誰でも使えるフリースペースがあるとよい、好きな場所に腰掛け、好きに過ごせるスペースが良いですね 市民要求に最大限に応えた建物を求めます、これが一番です デザイン等はこだわりません、小さな会議室や運動室、子供室を多くして下さい 外国の人たちに合わせる必要はない、市民が使いやすいというのが第一 あまり都会的でない方が良いのでは、アットホームな感じ 都会ではない、田舎らしい雰囲気、県外から来た人に田舎の良い感じを感じ取ってもらおう のんびり、ぽーっとできる 思い出がいっぱいある為松公園が好きなように、そこで思い出がたくさんできればいいのかな？そうしたら、みんなが集まれる、来やすい憩いの場でないといけないなあ…スーパーで買い物をしていたら知り合いにあう。そしたら買い物どころか近況を話し出してえらい買い物になる…そのスーパーで会う人は大体近所の人。そういう人同士が近いのが四十十市・田舎の魅力なのかも かしまった場所・静かな場所ではなく、しゃべってもOK、少々ワイワイ言ってもOKな場所があったら良いかも いちじょごさん：11/23〜24お祭りのとき、各家がお客さんを招いてお酒を飲む、そんなおおらかな人柄・空間 会議室のような小さい箱がみっちり沢山あるのではなく、ガラスや、向こうが見える開放感があって、そこへ多様な人が集まるようなイメージ 四十十に行ったらこんな素敵な施設があるよ、と噂になるような、四十十にしかない作り方がいい 外からこの部屋でどんな人たちが何をしているのか見える部屋の作り方、オープンしたり目隠しできるような空間 自由に使えるような野外スペースがあると良い ゆったり、日常使いができる、気軽、行き慣れた、あまり突飛（斬新）でない、つながれる…などのフレーズ 人、温かい、繋がり 天気のいい日は行くところがたくさんある！でもせっかく来てても天気が悪いと…この施設に来て四十十を感じられるようなところがいい。友人が子連れて旅行に来てくれて、雨のときは自信を持って遊びにつれていきたい
その他
<ul style="list-style-type: none"> 机の並べ方ひとつでも、一体感が違うと思った（会議室の様子） 花道を作ってほしい（平面的な） 落ち着いた雰囲気の良い建物が良い、奇抜なデザインや、四十十川だから床や壁、天井に川のデザインというのはあまりにベタ、本物の川があるのだから建物の中にはいらない、その費用他のところに回してほしい できるだけ利便性のある、スタンダードな建築空間が良いと思います 図面を見たいです（袖の広さが気になります） ホールについて：人数に合わせて使えるのはすごく良いと思いました。でも、ステージからは上とか横とか空席なのは見えるので、何かカーテンのようなもので壁のように仕切るなど、使っていない部分の椅子が見えないようにできたらいいなと思います 席数は800ほどで広い席、良い音響のあるホール、儲けよりそこで演奏したくなる、聞きたくなる設備のホール 頑丈で災害に強い建物を 台風に負けない施設に

検討されている部屋を色々な用途に使えるようにするために、こんな設備があったら使いやすい！というご意見や、子どもからお年寄りまで様々な方が使いやすいするための工夫を挙げていただきました。

<ul style="list-style-type: none"> まだ販売しているなら沈下橋復興のためのチャリティTシャツを扱ってほしい（ネットが西土佐でしか買えないので） 書道・茶道・華道・三味線・能等、日本の伝統芸能の活動も多数あり、その人々が違和感なく我慢せず使える和室は広必要 卓球台は有料で！ ホール背面に松羽目（鏡板）風の松の絵のある何かが設置できるとよい 屋根太陽光発電で電気を自給できるよう 和室：色々な方に使ってもらえることも大切だと思うが、床の間は必要なものだと思う（和の趣・掛け軸を掛けられる） 畳が敷かれた後に炉は切れますか？（どこにでも炉を切つてよいというものではないので）和室は少しか高さがありますか？フラットだと炉は切れないと思います 防音室にライブラリーを設置してください。ビデオ鑑賞や学生の勉強会もかねてほしい。大型テレビ（スクリーン）での映画上映もできます
--